



令和5年3月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

アントクメの天然採苗に成功

西伊豆地域の漁業者が共同で西伊豆の特産品アントクメ(しわめ)を養殖する試みが行われています。漁業者の活動を助けるため、伊豆分場では2022年9月7日に稲取漁港の岸壁に生育するアントクメの近傍に採苗ロープを設置し、天然採苗に挑戦しました。その結果、2023年1月20日に採苗ロープにアントクメの着生を確認することができました。さらに2月16日には新たな個体の着生と1月に着生した個体の成長が確認されました。1月20日の測定時は約3cmであった個体が2月16日には約18cmに成長していました。今後、採苗されたアントクメを回収し、漁業者に提供することで、西伊豆地区にて養殖ロープによる海上育成が行われる予定です。アントクメが養殖され、地域の漁業振興につながることを期待しています。



採苗されたアントクメ↑ (左)1月20日、(右)2月16日観察

磯焼け対策用アカモク種苗の供給

黒潮大蛇行が長期間継続し、カジメの磯焼けとアワビ、サザエの痩せ貝が顕著になっています。伊豆分場では磯焼け対策として、生産したアカモク種苗を供給しています。昨年度はすぐ漁場に沖出ししたところ、魚の食害と思われる藻体の消失で成果が上げられませんでした。

今年度はすでに数地区に種苗を出しましたが、港内である程度の大きさまで育成してからのお出しをお願いし、食害対策も各地区で考えてもらうようにしました。昨年の轍を踏まず、晩春の成熟後、磯焼け海域に“種”が供給され、藻場造成が成功することを期待します。



川奈では三枚網に絡ませて港内養成 右14日後、生長を確認

富戸定置網がサーモン養殖試験を開始

2月16日、城ヶ崎富戸定置網株式会社が蓄養網を使用したサーモンの養殖試験を開始しました。蓄養網には、あらかじめ水温や塩分濃度に馴致させたトラウトサーモン(ニジマス)とサクラマスあわせて約300kgが投入されました。翌週から給餌が開始され、魚たちは元気に餌を食べています。このまま順調に成長すれば、4月頃に出荷予定です。

富戸定置網では、昨年11月から、漁獲された魚を一時的に蓄養網に収容して出荷調整する取組も開始しています。これら定置網漁業者の新たな取組から、地域発の新たな食材誕生が期待されます。



蓄養網内を泳ぐサーモン

3月の予定 ●静岡県定置漁業協会理事会(1日) ●キンメダイ種苗生産研究報告会(2日) ●下田市水産海洋学講座(2日) ●栽培漁業若手研修会(8~9日) ●マダイ資源評価担当者会議(13日) ●静岡県キンメダイ漁業者協議会(13日) ●潜水調査(テングサ作柄調査:各地、テングサ施肥試験:土肥)

連絡先: 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話: 0558-22-0835

アドレス: suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ: <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。